

学園長だより 第21回

# 青春無限



次は、59年前の新聞記事です。

## 校旗、優勝旗を先頭に

淑徳学園 新校舎へ引越し

千種区池下町、淑徳学園の校舎移転は31日行われた。早朝から全校生徒が登校して旧校舎を清掃、午前9時半から校庭でお別れの式を行い、生徒代表、田内良枝さん（高校三年）が

「ながい間お世話になりました」と別れのことばをのべた。つづいて小林素三郎校長を先頭に2千人の生徒が校旗や優勝旗をかかげて約四キロ離れた同区桜ヶ丘の新校舎まで行進、テープを切って新校舎に入った。

（毎日新聞、1959年4月1日朝刊）

借地借家の西新町時代での1年間、借地に廃校の小学校校舎を移築し始まった東新町時代での22年間を経て、ようやく自前の土地と校舎で戦前戦中戦後

を過ごした池下時代での31年間に別れを告げ、愛知淑徳が3度目の引越しをした日の報道です。

愛知淑徳は移転する決断をします。これまでの4倍以上の広さが思ひもかけない要請を受けます。

「地下鉄を榮から東山公園まで延伸するので、池下学舎を車庫用地として譲つていただきたい」との名古屋市からの要請です。断れば校地の3分の1が強制収容されるとのこと。

戦争で荒れ果てた学舎も順調に整備され、手狭にはなるが駅近の一等地となる池下学舎に残るか、広いがまだ何もなく、交通不便な新天地に移るかの決断が迫られます。

新天地は、戦後の新しい設置基準による校地面積を確保する必要から、東部丘陵地帯に購入してあつた土地です。当時の

「淑徳晴れ」はその後運動会などで好んで使われ、同窓生には懐かしいことばとなっていますが、そこに込められた願いは中学・高校だけでなく、大学にも受け継がれています。

この丘で

ふみしめる大地のいぶき  
いづこへ？とたどりゆく  
照りかげり  
つない上天氣。全校生徒が、間もなく取り壊される校舎を清掃をお礼を述べ、威風堂々池下から星が丘まで行進し、真新しい学舎に入場しました。そこで聞いた校長先生の最初のことばが

「今日は淑徳晴れ」。  
そこには「淑徳生よ、今日のような青空へ夢かかげて学校生活を送ってくれ」との願いが込められていました。

愛知淑徳学園理事長・学園長

## 小林素文

この歌詞は、愛知淑徳大学が1995年に男女共学となつたときに作られた大学歌『青春無限』の一節です。